

1998年度年報

セント・ルカ産婦人科



1998.6.1~1999.5.31

St. Luke

目次

病院概要	1
巻頭言	2
外来・入院数	4
妊娠数	6
この一年を振り返って	8
外来患者及び妊娠結果の内訳	11
学会発表一覧	16
講演一覧	18
論文一覧	18
著書(共著)一覧	18
翻訳一覧	18
主催講演会・講習会一覧	19
学会・講演会参加一覧	20
見学・院内講習会参加一覧	21
不妊カウンセラー活動一覧	21
行事一覧	22
スタッフ紹介	25

病院概要

名称 医療法人セント・ルカ セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

開設年月日 1992年6月3日

住所 〒870-0947 大分市津守富岡5組
TEL 097-568-6060
FAX 097-568-6299
E-mail sentluke@fat.coara.or.jp
<http://www.coara.or.jp/~sentluke>

許可病床数 14床

職員数 総数 29名

常勤医	1名	情報処理室	2名
研究室	4名	事務部	2名
検査室	4名	調理士	2名
看護婦	9名	栄養士	1名
准看護婦	4名		

診療時間 月、水、金： 9:00～12:00
17:00～19:00 (要予約)
火、木、土： 9:00～12:00
(祭日を除く)

<本年報の集計は、SarahBase を用いました>

巻頭言

少子少産時代といわれ始めて久しい。昨年度の厚生白書では「少子社会を考える」と題して 500 ページほどにわたってきめこまかい分析と対応が書かれている。その中で不妊についての記載は 66 ページ目の下半分、半ページしかない。いかに不妊が大きな社会問題にかかわりあるかが認識されていない、厚生省の「少子問題」担当者においてすら。私は昨年まで市医師会理事として母子保健小委員会のメンバーであった。約 30 名の市の保健婦や医療担当職の方々といろいろな項目について話す機会があった。その中で「不妊症の頻度はどれくらいか知っていますか」と聞いてみたところ、誰一人として答えられなかった。母子保健を担当している専門家の集団でさえ、このありさまである。いかに不妊症の実態が世間に知られていないかがわかる。これでは「不妊診療を保険適用に」などといっても暖簾に腕押しであるのは当然である。

社会環境の変化とともに結婚年齢が上昇し、挙児希望で訪れる女性の年齢が上昇している。そのために、子宮筋腫や骨盤内感染症、子宮内膜症などの疾患が多くなっている。女性は 35 歳以上では妊孕力が下がる。平均初診時年齢が 30 歳であるのであと 5 年しかない。また、これも環境汚染のためか、男性の精液所見が劣化している。半年毎にデータを取り直しているが、いつも 60%の男性が異常所見を示す。これらはすべて、今後ますます不妊に悩むカップルが増えることを示している。

このように今後は不妊医療、特に体外受精を中心とした生殖補助医療(ART)の必要性がますます増えてくると思われる。しかし、一般社会では(というより、不妊診療担当者以外の医療従事者ですら)その実態は知られていない。むしろ、クローンなどの特殊な技術と同列に並べられて議論されているのが一般的なイメージであろう。確かに ICSI などはつい数年前までは考えもできなかった技術である。それが今や ART の半分を占めている。それらの技術を駆使して今までは赤ちゃんが望めなかったカップルにも大きな希望が与えられるようになった。しかし、AZF-DAZ などのように今までは自然に淘汰されていた遺伝子異常もこの技術で妊娠が可能となり、その異常を受け継いだ児が生まれてくる可能性が出てきた。幸いなことに今までは ART で生まれた児の異常は自然妊娠の場合と比較しても差はないことが世界中で確認されている。しかしこれらの事実を知っているわれわれは今後も注意深く見守っていく義務がある。

このように不妊医療を取り巻く環境が日々変化していつている中で、われわれは今、何をなすべきか。ひとつには、医療側の体制造りである。ART は今までになかったほどの高度の技術を持った大勢のスタッフのチームワークでなされる。そのひとつでも不完全であると妊娠は得られない。つまり、各セクション一つ一つが最高の技術を傾けて、それが総合してやっと治療が成功する。そのためには医者のみならず、エンブリオロジスト、ナース、カウンセラー、コーディネーターなどが一定以上のレベルの技術を持っていないと行かない。そのためにそれらスタッフの絶え間ない研修、勉強が必要である。それを目指して「日

本生殖医療研究協会」が組織されたことはわれわれのみならず、不妊に悩むカップルにとっても非常に有益と思う。また、そのような優秀な技術を持ったスタッフの社会的な身分の保証も協会を通じて可能になった。今までのようにただ単に不妊治療病院で働いているナース、検査技師ではなく、不妊専門カウンセラー、コーディネーターなのである。

次にすでにわれわれが日本不妊学会雑誌に発表したように、不妊治療の保険適用などを中心にした、社会的規模からの不妊に悩むカップルへの支援である。2年前から保険に適用されるといいながらいまだに実現していない。ARTを行えば一月分の給料などすっ飛んでしまう。現在はお金のない人は不妊の治療は受けられないのである。これも不妊の実態が世間に知られていないからであり、その意味からもわれわれが先頭に立ってこれらのことを、あらゆる機会を通じて世間に訴えて行かねばならない。つい先日、厚生省は不妊診療がお金のかかることを、日本家族協会を通じて調査し発表していた。しかしわれわれはすでに2年以上前から学会発表や論文において主張してきているのである。

また、不妊症が増加するという傾向は、さらに、周産期医療にも影響が出てくることを示す。高齢出産、多胎妊娠、早産、合併症妊娠などが避けられなくなる。そのためにはNICUを中心とした周産期医療チームの養成と施設の充実が必要となる。さらに、ARTの新しい技術が妊娠率を向上させるが、それに伴って遺伝子レベルの疾患の研究が必要になるろう。それらの医療施設、研究施設の整備が早急に望まれる。

最後に不妊治療にはどうしても倫理的問題が常に存在する。それも極端に難しい場合がある。先日のシドニーでは母親の卵子と提供された精子でもってIVFを行い、おばの子宮に移植し、子供を生んだ母親とおばとその子供の体験発表があった。‘new family’だそうである。アメリカやヨーロッパでは離婚率は50%以上で、西海岸では小学校のクラス児童の80%が、両親のうち一方の親が生みの親とは違うそうである。そのような環境でのDonationで生まれた子供と日本での現状には大きな差があるのは自明のことであろう。また、社会の構成、歴史、宗教などの違いも含めて考えなければならない。先日、厚生省からDonation等について質問状がきてその結果が公表された。しかしわれわれはすでに5年前に代理母や減胎手術についての意見を調査し、学会発表、論文掲載を行っており、その結果は今回の厚生省の結果とほぼ同じであった。

このように考えて行くと、われわれのイメージする「家族」と諸外国で言うFamilyには微妙な違いがあるのではないかと思う。われわれは不妊診療を通していつも「家族」「夫婦」の意味を考えさせられ、特に患者さんから教えられることが多いが、そのような立場から、諸外国との違いを認識し、われわれの社会にあった形を「専門家」として提案するべきと思う。その中には子供のいない家族も「家族」として受け入れること、また、女性に対して「お子さんは？」というような言葉はエチケットに反しているという常識を広めることも含まれている。

外来・入院数(1998. 6. 1~1999. 5. 31)

	入 院	外 来
6 月	111	1, 985
7 月	159	2, 180
8 月	139	1, 996
9 月	123	1, 919
10 月	147	1, 877
11 月	154	1, 862
12 月	95	1, 573
1 月	136	1, 686
2 月	124	1, 726
3 月	151	1, 908
4 月	118	1, 736
5 月	122	1, 485
合計	1, 579	21, 933

入院数(1998. 6. 1~1999. 5. 31)

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計
手術入院													
腹腔鏡手術	11	10	13	18	16	15	13	11	18	13	12	4	154
子宮内容除去術 (流産のため)	2	2	4	2	2	0	3	5	4	6	5	9	44
子宮内膜搔爬術	0	0	1	2	0	1	0	0	0	1	0	0	5
子宮外妊娠 (腹腔鏡下手術)	0	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	6
子宮筋腫核出術	3	2	5	0	1	1	1	1	2	3	4	3	26
子宮単純全摘手術	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
双角子宮形成術	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
開腹手術(卵巣)	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3
経頸管子宮筋腫切除術 (TCR)	0	1	1	0	1	0	1	0	0	2	0	0	6
卵巣のう腫穿刺	2	0	1	1	2	1	1	4	0	3	2	3	20
減胎手術	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	6
シロッカー	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
バルトリン のう腫造袋術	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
その他	0	1	0	0	0	0	0	4	0	1	4	0	10
合計	19	20	27	25	26	21	20	27	24	30	27	19	285
安静入院													
卵巣過剰刺激症候群	0	5	7	2	4	4	3	1	2	4	1	2	35
切迫流産安静	0	3	0	1	4	2	1	2	1	3	5	4	26
その他	0	1	0	0	1	1	1	0	0	2	0	2	8
合計	0	9	7	3	9	7	5	3	3	9	6	8	69
体外受精入院													
採卵	40	65	50	45	53	61	33	50	43	55	39	46	580
GIFT, ZIFT, TET	4	4	3	4	0	4	0	0	0	1	1	2	23
胚移植	31	51	43	36	46	45	27	41	40	52	32	43	487
凍結胚移植	17	10	9	9	11	16	10	15	14	4	13	4	132
その他	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3
合計	92	130	105	95	112	126	70	106	97	112	85	95	1225
入院総計	111	159	139	123	147	154	95	136	124	151	118	122	1579

妊娠数(1992. 6. 3~1999. 5. 31)

	周期	92~93	93~94	94~95	95~96	96~97	97~98
体外受精 胚移植	採卵	123	254	281	259	299	328
	移植	92	184	217	228	262	254
	妊娠	10(10.9%)	36(19.6%)	59(27.2%)	55(24.1%)	55(21.0%)	52(20.5%)
体外受精 卵管内移植	採卵	0	9	6	6	3	0
	移植	0	7	6	5	3	0
	妊娠	0(0%)	1(14.3%)	1(16.7%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
顕微授精 胚移植	採卵	0	78	217	253	233	218
	移植	0	54	173	228	210	184
	妊娠	0(0%)	5(9.3%)	20(11.6%)	44(19.3%)	31(14.8%)	38(20.7%)
顕微授精 卵管内移植	採卵	0	1	6	3	0	4
	移植	0	1	6	3	0	4
	妊娠	0(0%)	0(0%)	1(16.7%)	2(66.7%)	0(0%)	1(25.0%)
GIFT	採卵	24	37	22	13	10	16
	移植	24	36	22	13	10	16
	妊娠	5(20.3%)	11(30.6%)	7(31.8%)	4(30.8%)	2(20%)	5(31.3%)
ZIFT	採卵	0	0	0	8	8	6
	移植	0	0	0	8	8	6
	妊娠	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(12.5%)	1(12.5%)	1(16.7%)
凍結融解 胚移植 (ICSI後凍結含む)	採卵	1	5	8	35	56	101
	移植	1	5	8	34	56	99
	妊娠	0(0%)	0(0%)	1(12.5%)	1(2.9%)	10(17.9%)	15(15.2%)
凍結融解 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	0	2
	移植	0	0	0	0	0	2
	妊娠	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(50%)
小計	採卵	148	384	540	577	609	675
	移植	117	287	432	519	549	565
	妊娠	15(12.8%)	53(18.5%)	89(20.6%)	107(20.6%)	99(18.0%)	113(20.0%)
ART 以外の 妊娠数		164	230	202	246	188	173
妊娠総数		179	283	291	353	287	286

妊娠数(1992. 6. 3~1999. 5. 31)

	周期	98~99	合計
体外受精 胚移植	採卵	277	1,821
	移植	236	1,473
	妊娠	60(25.4%)	327(22.2%)
体外受精 卵管内移植	採卵	0	24
	移植	0	21
	妊娠	0(0%)	2(9.5%)
顕微授精 胚移植	採卵	286	1,285
	移植	234	1,083
	妊娠	29(12.4%)	167(15.4%)
顕微授精 卵管内移植	採卵	2	16
	移植	2	16
	妊娠	1(50.0%)	5(31.3%)
GIFT	採卵	13	135
	移植	13	134
	妊娠	1(7.7%)	35(26.1%)
ZIFT	採卵	7	29
	移植	7	29
	妊娠	1(14.3%)	4(13.8%)
凍結融解 胚移植 (ICSI後凍結含む)	採卵	140	346
	移植	134	337
	妊娠	34(25.4%)	61(18.1%)
凍結融解 卵管内移植	採卵	1	3
	移植	1	3
	妊娠	0(0%)	1(33.3%)
小計	採卵	726	3,659
	移植	627	3,096
	妊娠	126(20.1%)	602(19.4%)
ART以外の 妊娠数		174	1,377
妊娠総数		300	1,979

この一年を振り返って

今年の6月で丸7年が経過した。開院以来約8000人が来院し、そのうち28%が男性であった。また、挙児希望の女性は3963人であった。特に男性ではそのうち約60%が精液検査で異常を示し、最近言われている環境汚染や、ストレスの影響かと思われる。私が25年前に温研で行った調査では35%が異常であった。それに比較すると男性の異常は倍増したことになる。また、挙児希望女性の初診時年齢は30歳であり、これも25年前の調査では28歳であったので2歳高齢化している。これは社会の現象と関係していると思われる、結婚年齢の上昇のためと思われる。このように今後、ますます不妊に悩むカップルが増えていくことと考えられる。

さて、当院の成績であるが、この7月には開院以来2000人の妊娠が達成できそうである。妊娠率44%で、途中で通院をしなくなった人を除けば82%が妊娠したことになる。そこで残りの18%のうち82%がまた妊娠すれば、97%は妊娠できることになる。私は不妊症の97%が妊娠できる時代がきていると確信している。

また、多胎率については、12%と少なかった。しかし自然妊娠でGSは2個で胎児は4人、2卵性4胎や、IVFで2個ETしてGS2個で3胎などがあつた。また、クロミフェン1錠で4胎の経験もあるので、排卵誘発剤を用いる場合は常に多胎妊娠は念頭に置かねばならず、したがって、減胎手術も元気な子を産むためには考慮しなければならない場合もあると思う。

腹腔鏡手術は1200例を超え、実に挙児希望女性の1/3がこの手術を受けた。その結果、その後、30%が一般的治療で妊娠し、また、さらに30%がARTで妊娠した。この腹腔鏡手術の重要性については昨年5月にイスラエルでのヨーロッパ産婦人科学会で発表した。当院では腹腔鏡後3~4回AIHを行っても妊娠しない場合にARTを勧める。その場合に、骨盤内の状態がわかっていればGIFTにも入れる。

6月までの時点で1400人あまりの赤ちゃんが誕生した。そのうち、75%はまったく正常で、18%は多胎妊娠や早産のため低出生体重児であった。また、奇形を含めた異常児は2.0%で、通常の妊娠、分娩に比べても差はなかった。しかし、異常児28児のうち、15児はART児である。最近の生殖医療の発達とともに、今まで妊娠しなかった場合でも、ICSIや胚盤胞移植などの技術向上の結果、妊娠が望めるようになり、それに伴って、遺伝子の異常が児に伝わる場合も考えられる。この方面でも分子細胞学的研究の必要性がある。

また、1歳以上に成長した児についての調査では、質問紙の回収率は48%と低いが、97%の児が健康に育っていた。この件については彼らが生殖年齢に達するまでフォローするべきであろう。

さて、念願の生殖医療研究所が今年の1月から実働をはじめた。特に採卵室やクリーン・ルームはもっとも清潔区域とし、中でもクリーン・ルームはヘパ・フィルターを用いた換気装置を設け、入室は完全清潔の状態で行うことにした。その結果、常時30%以上の妊娠

率が得られるようになったことは思いがけないほどの効果であった。

それでも妊娠しない ART 妊娠困難例は日に日にたまっていくのが現状で、いまや、採卵の半数以上が 4 回以上の ART 不成功例である。そして妊娠は 3 回以下の新しい人に得られる場合が多い。ますます困難例がたまっていく。この困難例をいかに治療するかがわれわれのもっとも関心の高いところである。この妊娠困難例に対し、Assisted Hatching の有用性についてサンフランシスコで、また胚盤胞期移植についてシドニーで発表した。

昨年はアメリカ、テキサスから SSS 合成血清の考案者である Dr. Thomas Pool にきていただいでセミナーを開いた。また今年 8 月に胚盤胞期移植用 G1/G2 メディウムの考案者であり今、世界で最も先端を走っている Dr. David Gardner に来ていただけるようになった。これらは当院の設立以前からお世話になっている広島 HART クリニックの高橋克彦先生、向田哲規先生のおかげで実現した。胚盤胞期移植については、ART4 回以上の妊娠困難例においてすでに 22 例の妊娠が得られ、その印象は、妊娠困難例の 1/3 はこれで解決できるが残りの半数はまだまだ難しいといったところである。

これらの困難例を研究するため、基礎実験室を設けた。今、やっと動き始めたというところであるが、精子の FISH による分析や、PCR での AZF の検出も行っており、学会発表はすでに行い、今、論文作成中である。

この 1 年間に国際学会発表 3 題、国内学会発表 26 題、論文 8 篇が得られた。なかでも、ナース部門は不妊患者さんの精神的傾向を Cornell Medical Index (CMI) をもちいて分析し、夏の日本不妊学会雑誌に掲載されることになった。また、ART を途中で止めた患者さんに質問紙を配布し、その後の様子を調査した結果を論文にした。これは掲載を待っている。論文といえば今回、「新女性医学体系」の「生殖補助医療 - 着床と黄体補充」の項を東邦大学久保春海先生のご推薦で書かせていただいた。150 の論文を読み、70 あまりから引用し、といったとても難しい項であった。そして、この部分は ART の分野でも一番わかっていないところであることがわかった。

さて、このような仕事を進めていく上でもっとも大切なことのひとつに情報整理がある。当院では開院当初から臨床データのコンピュータ処理を行っていたが、そのソフトは既存のものを改変して使用していた。しかしそれには限界があり、この 2 年間をかけて新たに不妊症診療に役立つソフト「SarahBase」を開発し、5 月 29 日から発売を開始した。このソフトはデータの取込をもっとも簡便に、かつ人手がかからないよう、またその取出しを簡便に、かつデータ処理、統計学的解析を簡便かつ正確に行ってくれるものである。幸いなことに自治医科大学の荒木重雄先生のおかげでそのスタイルは最も完成したものになった。さらに「日本生殖医療研究協会」がこのソフトの有用性を認めてくれ、協会の「オフィシャル・ソフト」にさせていただいた。生殖医療では各施設間のデータ処理がまちまちであり、成績やテクニックの比較が困難である。そういう意味で統一ソフトを用いるメリットがあると思うし、また、この「SarahBase」は私の個人的な関心を中心に作成してあるため、今後は協会会員の意見を取り入れながら毎年改良していきたいと考えている。

生殖医療研究協会については、不妊診療を行うスタッフ全員が勉強できる唯一の会と思う。特に不妊診療、ARTほど、チーム・ワークを必要とする分野はない。医学はもちろん、心のケア、カウンセリング、コーディネーターそして世界中からの情報整理など、今までの医療にはなかった部分がたくさんある。これらを総括し、よりよい方向に結び付けて行くのがこの協会の役割であろうし、また、日常診療や研究から出てきた疑問や要求を具体化させるのにこの協会の存在はますます重要になるであろうと感じる。

この一年間にまたいくつか発展し、いくつか消えてゆき、いくつかの課題が生まれた。不妊症診療はトータルな活動を必要とすることがわかった。またこれからの1年、患者さんと向き合い、科学の可能性にチャレンジし、社会に働きかけ、同じ志を持つ皆さんと議論し、学びあいたいと思う。

外来患者及び妊娠結果の内訳(1999. 5. 31 現在)

1. 当院の患者数

1) 開院(1992. 6. 3)～本年(1999. 5. 31)までの外来患者数

8,015人

男性 2,254人 (28.1%) (平均年齢 33.1才)

正常 889人 (39.4%) 異常 1,365人 (60.6%)

女性 5,761人 (71.9%) (平均年齢 30.3才)

・ 拳児希望の女性 3,963人 (68.8%) (平均年齢 30.3±4.3才)

・ 妊娠件数 1,979件 (平均年齢 30.6±4.0才)

・ 妊娠に至らなかった女性 2,223人

2) 妊娠率(患者あたり) 43.9% (3,963-2,223/3,963)

3) 治療を途中で諦めた女性 1,831人 (46.2%)

4) 実妊娠率(患者あたり) 81.6% (3,963-2,223/3,963-1,831)

2. 妊娠の内訳

他院へ紹介済	1,444例	(73.0%)
流産	397例	(20.1%)
子宮外妊娠	56例	(2.8%)
胞状奇胎	8例	(0.4%)
不明	50例	(2.5%)
当院で経過観察中	24例	(1.2%)
計	1,979例	(100%)

3. 出産結果 (他院へ紹介済の1,444例中、妊娠結果が判明している1,241例について)

1) 妊娠結果

満期産	1,073例	(86.46%)
満期産、死産*	1例	(0.08%)
満期産、外妊*	1例	(0.08%)
早産	132例	(10.64%)
早産、死産*	2例	(0.16%)
早産、IUID*	1例	(0.08%)
過期産	8例	(0.64%)
死産	9例	(0.73%)
流産	9例	(0.73%)
流産、死産*	1例	(0.08%)
奇形中絶	1例	(0.08%)
不明	3例	(0.24%)
計	1,241例	(100%)

2) 多胎妊娠について

単胎	1,098 例	(88.5%)	1,098 児
双胎	134 例	(10.8%)	268 児
品胎	9 例	(0.7%)	27 児
計	1,241 例	(100%)	1,393 児

3) 出生児の状態

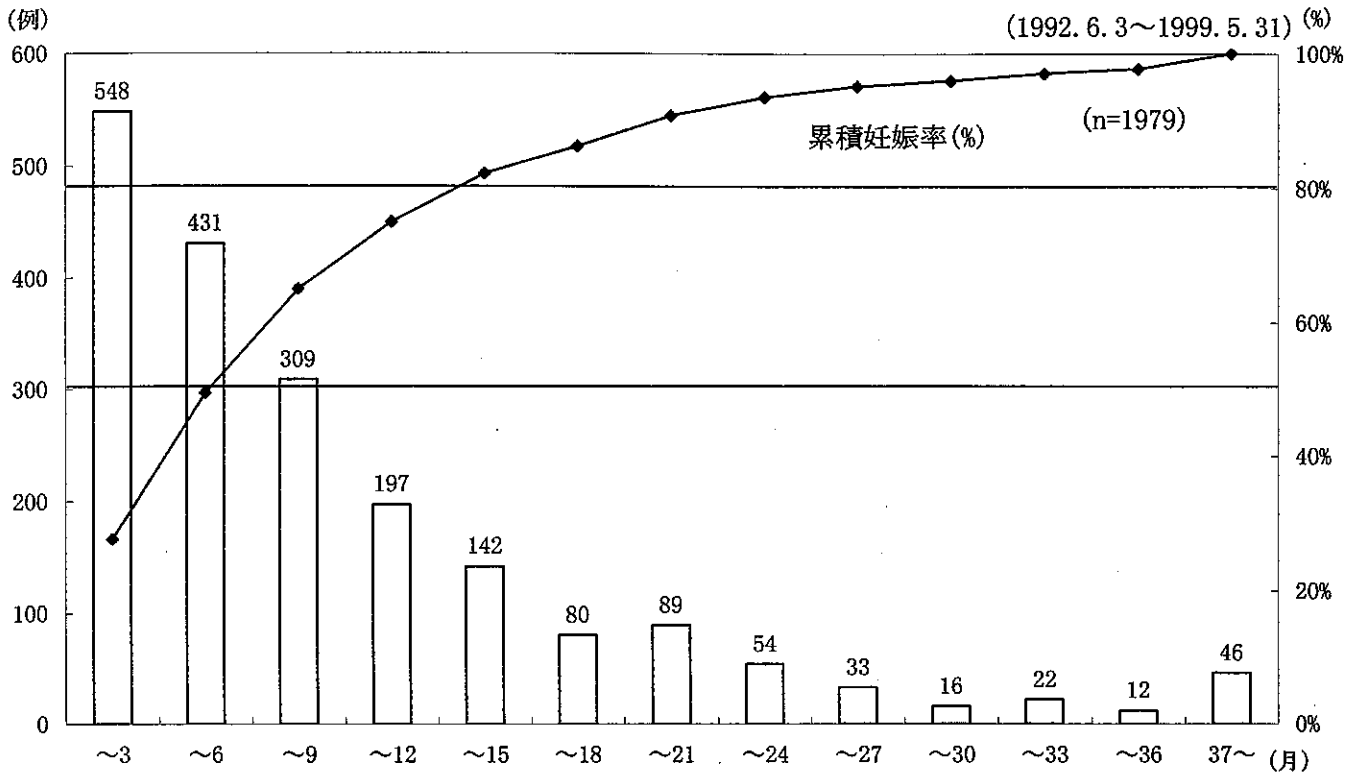
正常	1,051 児	(75.4%)
低体重児	253 児	(18.2%)
異常(流・死産等含む)	89 児	(6.4%)
(うち奇形を含む主な異常)	(28 児)	(2.0%)
計	1,393 児	(100%)

4. 妊娠に至った主たる有効治療

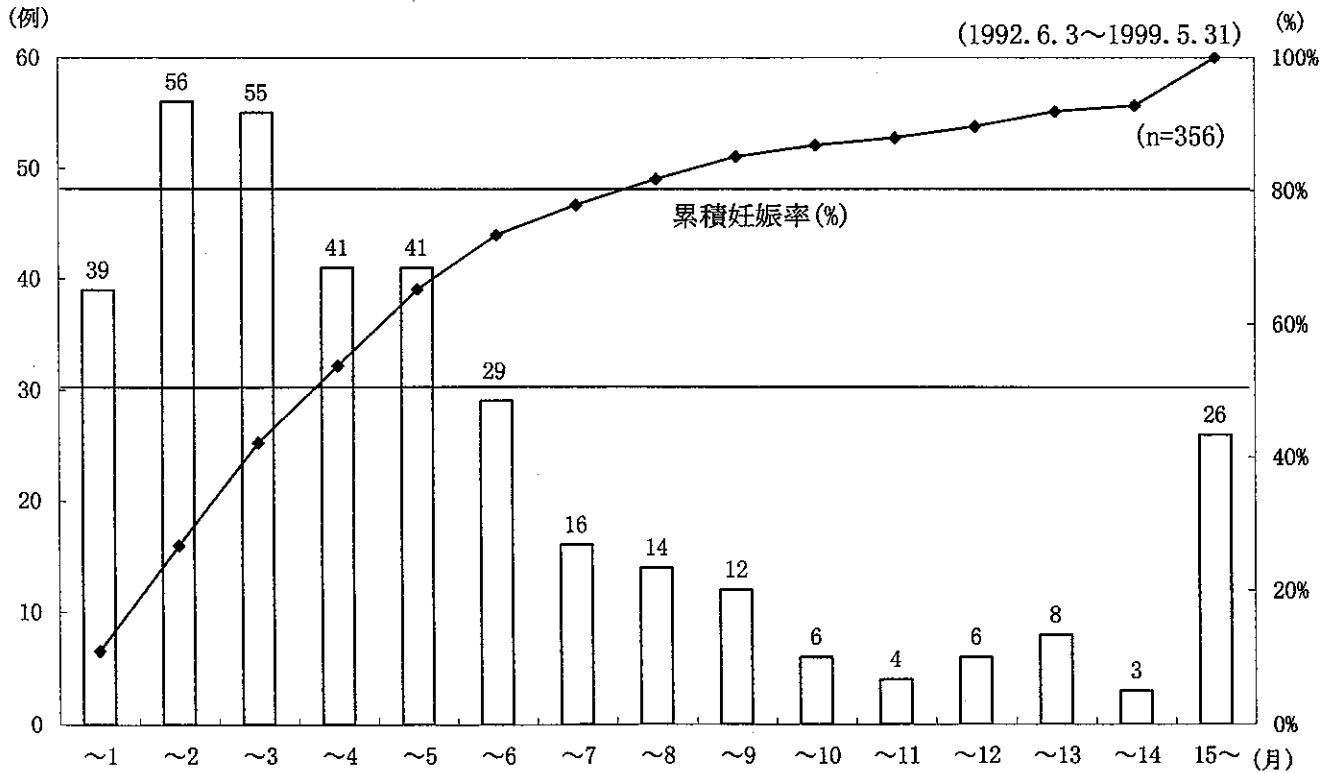
ART(生殖補助技術)全体	602 例	(30.4%)
IVF-ET(体外受精)	329 例	(16.6%)
MF-ET(顕微授精)	172 例	(8.7%)
CRYO-ET(凍結胚移植)	62 例	(3.1%)
AHA(人工介助孵化)	(23) 例	
胚盤胞期移植	(22) 例	
GIFT(胚偶子卵管内移植法)	35 例	(1.8%)
ZIFT(接合子卵管内移植法)	4 例	(0.2%)
AIH(人工授精)	435 例	(22.0%)
HMG-HCG	233 例	(11.8%)
クロミフェン	220 例	(11.1%)
ヒューナー	144 例	(7.3%)
HSG 直後	54 例	(2.7%)
HCG	46 例	(2.3%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	29 例	(1.5%)
リンパ球免疫療法	15 例	(0.8%)
パーロデル	12 例	(0.6%)
通水	10 例	(0.5%)
子宮筋腫核出術後	7 例	(0.4%)
LH-RH-TEST 時	3 例	(0.1%)
タイミング指導	155 例	(7.8%)
その他	14 例	(0.7%)
計	1,979 例	(100%)

(1999/06/22 セント・ルカ産婦人科)

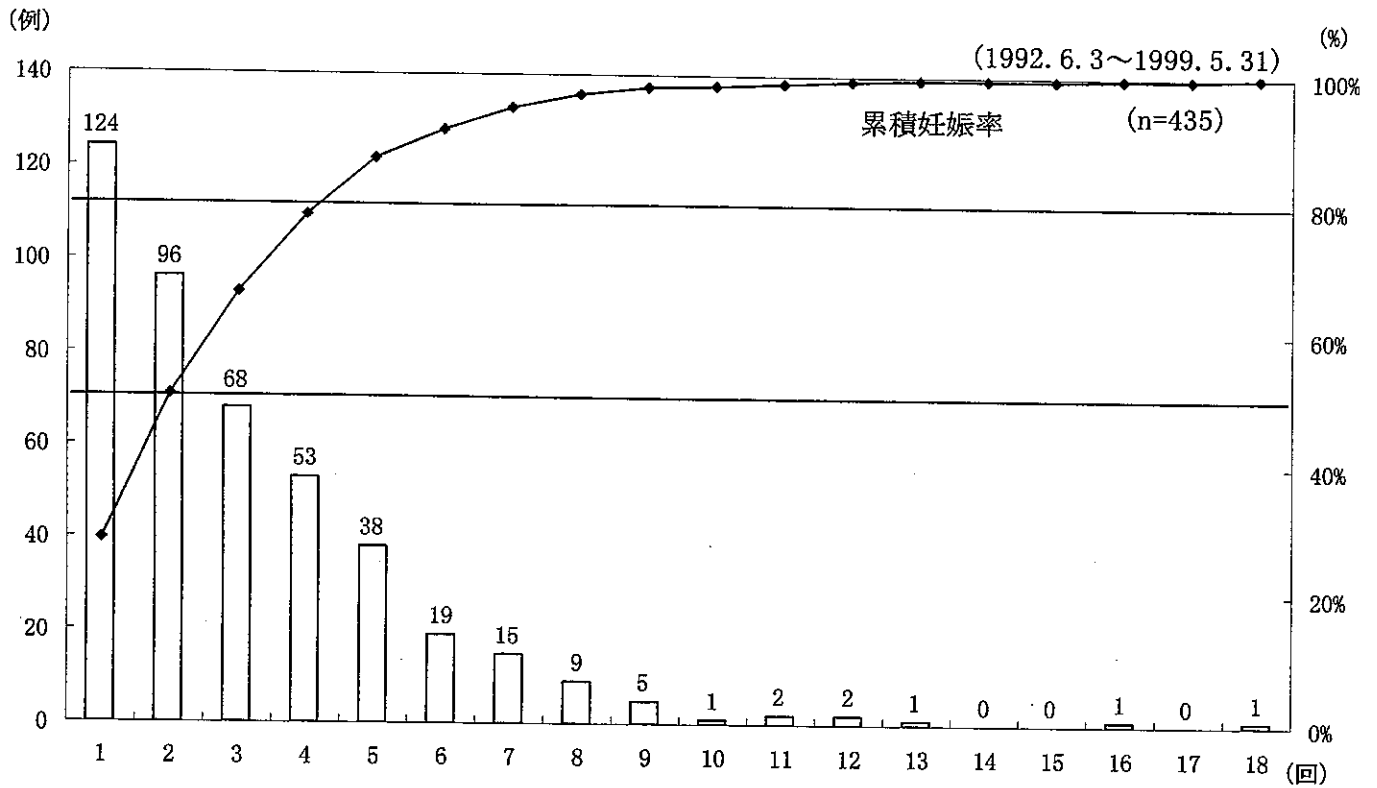
初診後妊娠までの期間



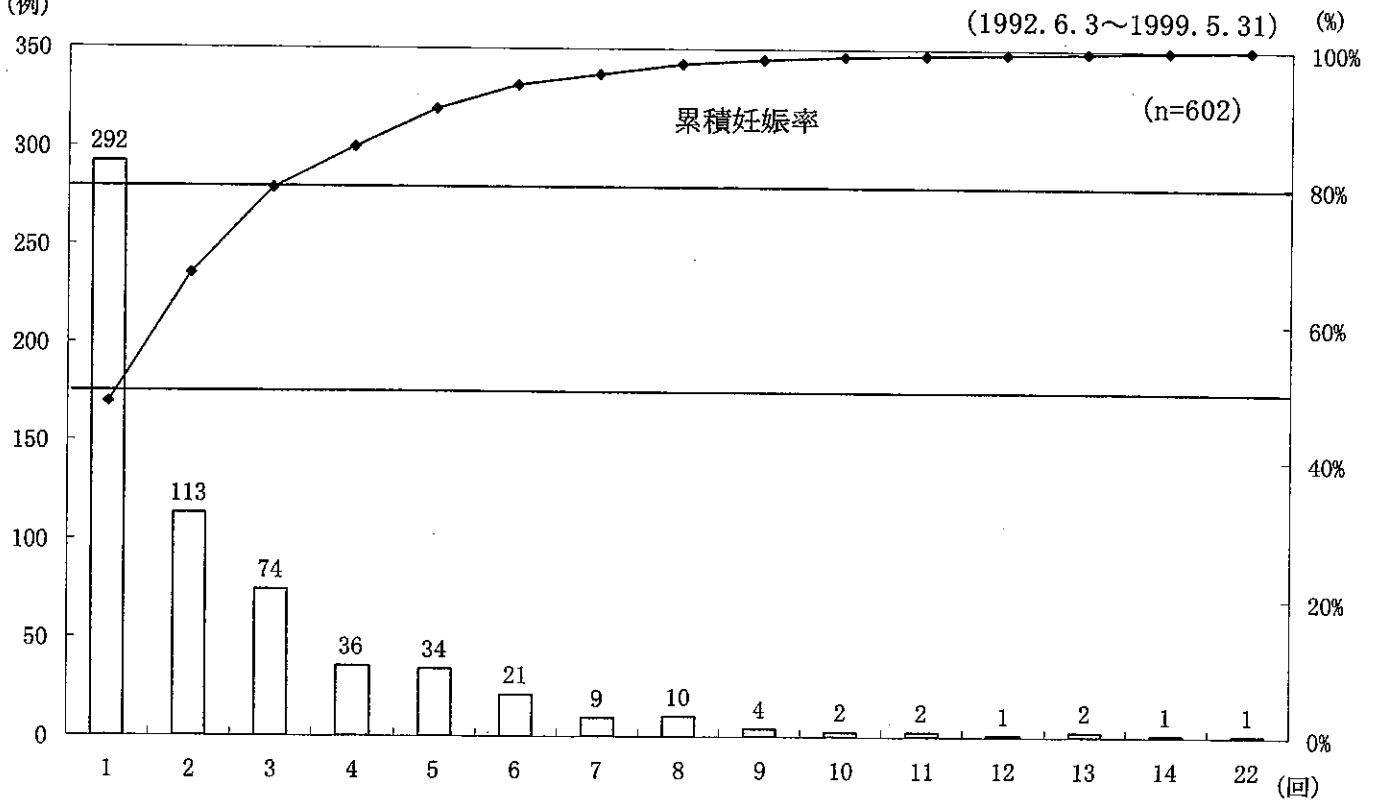
腹腔鏡検査後妊娠までの期間



AIH(人工授精)による妊娠



ART(生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠



ARTによる妊娠(1992. 6. 3~1999. 5. 31)

	採卵周期数	胚移植周期数 (採卵あたり%)	妊娠周期数 (移植あたり%)	流産周期数 (妊娠あたり%)
IVF-ET	1,845	1,494(81.0%)	329(22.0%)	87(26.4%)
MF-ET	1,301	1,099(84.5%)	172(15.7%)	56(32.6%)
(ICSI)	1,150	1,022(88.9%)	163(15.9%)	52(31.9%)
GIFT	135	134(99.3%)	35(26.1%)	13(37.1%)
ZIFT	29	29(100%)	4(13.8%)	1(25.0%)
CRYO-ET	349	340(97.4%)	62(18.2%)	15(24.2%)
ART. total	3,659	3,096(84.6%)	602(19.4%)	172(28.6%)

ARTによる出産および出生児の状況(1992. 6. 3~1999. 5. 31)

出産周期	327 周期				
出産状況	満期産	246 周期	(75.2%)	流産	5 周期 (1.5%)
	満期産、外妊	1 周期	(0.3%)	死産	3 周期 (0.9%)
	満期産、死産	1 周期	(0.3%)	流死産	1 周期 (0.3%)
	早産	65 周期	(20.0%)	奇形中絶	1 周期 (0.3%)
	早産、死産	1 周期	(0.3%)	不明	2 周期 (0.6%)
	早産、IUFD	1 周期	(0.3%)		
出産児数	423 児	単胎	238 例 (72.8%)	238 児	
		双胎	82 例 (25.1%)	164 児	
		品胎	7 例 (2.1%)	21 児	
低体重児	145 児	(34.3%)			
異常児	46 児	(10.9%)			

学会発表一覧 (1)

	演題	学会名	場所
1998	6.28 当院の不妊外来の治療成績 (院長)	日本産婦人科学会大分地方部会	大分
	7.9 当院における Assisted Hatching の臨床成績について (検査部 佐藤真紀)	第 16 回日本受精着床学会	大阪
	Strict criteria による精子正常形態率と一般精液所見および受精率との関係についての検討 (検査部 熊迫陽子)	第 16 回日本受精着床学会	大阪
	7.18 不妊治療について—特に男性因子— (院長)	福岡不妊研究会	福岡
	8.8 卵管采の形状と妊娠率について (院長)	第 38 回日本産科婦人科内視鏡学会	川崎
	10.3 Assisted Hatching by Zona Thinning and Peri-Zona Dissection to multiple-failure in-vitro fertilization patients (院長)	16 th World Congress on Fertility and Sterility and 54 th Annual Meeting of the American Society for Reproductive Medicine	San Francisco
	11.12 The Relationship between Sperm Morphology Determined by Strict Criterion and Embryo Quality in ICSI and IVF Patients. (検査部 Dr.Paul E.Kihaile)	第 43 回日本不妊学会総会	鹿児島
	当院における Assisted Hatching の臨床成績について (検査部 佐藤真紀)	第 43 回日本不妊学会総会	鹿児島
	FISH 法によるヒト精子染色体異常の検討 (検査部 牛島千秋)	第 43 回日本不妊学会総会	鹿児島
	不妊症患者の「悩み」について質問紙調査による検討 (看護部 渡辺利香)	第 43 回日本不妊学会総会	鹿児島
	妊娠に至る前に体外受精を断念した理由をとらえての検討 (看護部 原井淳子)	第 43 回日本不妊学会総会	鹿児島
	11.19 FISH 法によるヒト精子染色体異常の検討 (検査部 牛島千秋)	第 29 回大分市医師会医学会	大分
	妊娠に至る前に体外受精を断念した理由をとらえての検討 (看護部 宿利佳子)	第 29 回大分市医師会医学会	大分
	11.22 Partial Zona Dissection(PZD)による Assisted hatching の有効性についての検討 (検査部 佐藤真紀)	第 43 回日本不妊学会九州支部会	大分
	Strict criteria による精子正常形態評価の IVF における媒精法への有用性 (検査部 熊迫陽子)	第 43 回日本不妊学会九州支部会	大分

学会発表一覧 (2)

		演題	学会名	場所
1998	11.22	ヒト胚培養において培養液の組成の差が胚発育におよぼす影響について (検査部 牛島千秋)	第43回日本不妊学会九州支部会	大分
		不妊症患者の「悩み」について質問紙調査による検討 (看護部 渡辺利香)	第43回日本不妊学会九州支部会	大分
		不妊治療により妊娠に至った患者への日常生活に関する質問紙調査 (看護部 實崎美奈)	第43回日本不妊学会九州支部会	大分
1999	4.18	ART 施行患者に対する医療側及び ART-OG 会の役割 (看護部 倉橋千鶴美)	第10回日本不妊学会春季九州支部会	福岡
		当院における胚盤胞期移植の経験 (検査部 佐藤真紀)	第10回日本不妊学会春季九州支部会	福岡
		当院における凍結・融解胚移植の成績 (検査部 長木美幸)	第10回日本不妊学会春季九州支部会	福岡
		The Incidence of Micro deletions in the Y chromosome of infertile men (検査部 Dr.Paul E.Kihaile)	第10回日本不妊学会春季九州支部会	福岡
	4.20	Comparison of outcomes between patients with poor prognosis sperm morphology who underwent either modified conventional IVF with high insemination of sperm concentration or ICSI (検査部 Dr.Paul E.Kihaile)	Africa Medical Association	South Africa
	5.10	THE EFFECTS OF THE CULTURE MEDIUMS AND ASSISTED HATCHING ON THE HUMAN EMBRYOS (院長)	11 TH WORLD CONGRESS ON In Vitro Fertilization and Human Reproductive Genetics	SYDNEY
	5.27	Fluorescence in-situ Hybridization によるヒト精子核の染色体異常の検討とその有用性 (検査部 牛島千秋)	第40回日本哺乳動物卵子学会	東京

講演一覧

	講演題	講座名	場所
1998	10.3	不妊患者へのケア (院長)	第2回不妊カウンセラー・IVFコーディネーター養成講座 東京
1999	2.20	アメリカ不妊学会参加報告 (院長)	第3回不妊カウンセラー・IVFコーディネーター養成講座 東京
	4.17	不妊女性との意見交換会講演 (院長)	不妊女性との意見交換会 東京

論文一覧

論文名	掲載誌	
卵管采の形状と妊娠について (院長)	日本産科婦人科学会雑誌	50(7):396,1998
不妊症診療における経済的側面の検討 (院長)	日本不妊学会雑誌	43(3):27(177), 1998
不妊患者へのケア (院長)	ペリネイタルケア	17(9):33(795), 1998
Strict Criteria による精子形態評価の IVF に対する有用性 (検査部 熊迫陽子)	日本不妊学会雑誌	43(2):29(103), 1998
不妊患者の「悩み」についての実態調査および CMI 健康調査による心理評価 (看護部 渡辺利香)	日本不妊学会雑誌	1999.7 掲載予定
妊娠に至る前に体外受精を断念した理由 (看護部 原井淳子)	医学書院 臨床婦人科産科	投稿中
Analysis of chromosomal abnormalities in human spermatozoa using multicolour fluorescence in-situ hybridization (検査部 牛島千秋)	Human Reproduction	投稿中

著書(共著)一覧

著書名	掲載誌	
生殖補助医療「着床と黄体補充」 (院長)	新女性医学大系	1999

翻訳一覧

書名	出版元	翻訳者
「不妊症：対処法と決断」 不妊症との上手なつきあい方 解説本 セント・ルカに通院中の方々へのメッセージ 不妊症とのつきあい方 (セント・ルカで治療していた M の場合)	American Society for Reproductive Medicine	Mさん・實崎 院長

主催講演会・講習会一覧

		主催講演会名	場所
1998	10.24	第5回セント・ルカセミナー 講師：日本ミリボア KK 研究開発部 石井直恵先生 「細胞培養液と超純水」 講師：自治医科大学教授、日本生殖医療研究協会会長 荒木重雄先生 「ART の成績向上に必要な環境：培養・機器・ラボ 内の気相のクオリティについて」 講師：広島 HART クリニック 向田哲規先生 「胚盤胞移植(Blastocyst-ET)に関して」 講師：IVF 大阪クリニック所長 福田愛作先生 「米国における培養環境」 講師：Fertility Center of San Antonio Thomas B.Pool 先生 「The Role of Blastocyst Culture, Cryopreservation and Transfer in Human Assisted Reproduction」 座長：大分医科大学教授 宮川勇生先生	セント・ルカ ホール
	11.29	第3回赤ちゃんがほしい講座 赤ちゃんがほしい (院長)	大分
1999	2.20	第1回生殖医療支援ソフト(Sarah Base)を学ぶ講習会	東京
	4.4	第2回生殖医療支援ソフト(Sarah Base)を学ぶ講習会	東京
	5.23	第3回生殖医療支援ソフト(Sarah Base)を学ぶ講習会	大阪

学会・講演会参加一覧 (1)

		学会・講演会名	場所	参加者
1998	6.28	日本産婦人科学会大分地方部会	大分	院長
	7.9	第16回日本受精着床学会	大阪	熊迫・牛島・佐藤 長木・Dr.Paul E.Kihaile 院長
	7.18	福岡不妊研究会	福岡	院長
	8.8	第38回日本産科婦人科内視鏡学会	川崎	院長
	9.20	第46回産婦人科情報処理研究会	大阪	内藤・後藤孝
	10月	第30回アルメイダ QC 大会	大分	渡辺多・指山・広津留
	10.3	第2回不妊カウンセラー・IVF コーデ ィネーター養成講座	東京	原井・實崎・熊迫・院長
	10.3	16 th World Congress on Fertility and Sterility and 54 th Annual Meeting of the American Society for Reproductive Medicine	San Francisco	實崎・熊迫・院長
	10.6	命の電話講演会	大分	原井・市野瀬・磯崎 指山
	10.23	第8回大分市医師会産婦人科不妊内分 泌代謝懇話会	大分	全員
	11.11	メディコム展示会	大分	内藤・後藤孝
	11.12	第43回日本不妊学会総会	鹿児島	原井・渡辺利・牛島 佐藤・Dr.Paul E.Kihaile 広津留・院長
	11.19	第29回大分市医師会医学会	大分	全員
	11.22	第43回日本不妊学会九州支部会	大分	全員
12.8	平成10年度第9回心理相談研究会	福岡	實崎・倉橋・指山	
1999	2.20	第3回不妊カウンセラー・IVF コーデ ィネーター養成講座	東京	原井・實崎・院長
	3.20	ICSI WORK SHOP in 米子	鳥取	熊迫・牛島
	3.20	ジャーナルクラブ	栃木	院長
	3.27	第31回アルメイダ QC 大会	大分	渡辺利・市野瀬・指山
	4.17	不妊女性との意見交換会	東京	院長
	4.18	第10回日本不妊学会春季九州支部会	福岡	工藤・佐藤・長木 渡辺利・倉橋・Dr.Paul E.Kihaile・広津留 院長
	4.20	Africa Medical Association	South Africa	Dr.Paul E.Kihaile

学会・講演会参加一覧 (2)

		学会・講演会名	場所	参加者
1999	4.23	第9回大分市医師会産婦人科不妊内分 泌代謝懇話会	大分	全員
	5.10	11 TH WORLD CONGRESS ON In Vitro Fertilization and Human Reproductive Genetics	SYDNEY	長木・広津留・院長
	5.27	第40回日本哺乳動物卵子学会	東京	牛島
	5.29	第4回不妊カウンセラー・IVF コーデ ィネーター養成講座	東京	牛島・原井・渡辺利 指山・院長

見学・院内講習会参加一覧

		見学施設・講習会名	場所	参加者
1998	10.13	パンの会の方がたのお話	大分	全員
	11.19	広島 HART クリニック見学①	広島	熊迫
	11.30	広島 HART クリニック見学②	広島	長木
	11.30	SRL 技術者より FISH 法を学ぶ	大分	牛島・Dr.Paul E.Kihaile
1999	1.23	三宅医院見学	岡山	長木・広津留・倉橋 指山・院長
	6.1	東邦大学へ研修	東京	牛島

不妊カウンセラー活動一覧

		会名	患者さん参加人数
1998	8.29	第3回ガーネットサークル (ART OG 会)	12名
1999	2.13	第4回ガーネットサークル (ART OG 会)	11名
	6.12	第5回ガーネットサークル (ART OG 会)	13名
1998.6～ 1999.5 まで		なんでも相談日 (当院カウンセラーによる)	総数 43 件
1998.6～ 1999.2 まで		不妊相談日 (院長)	総数 42 名 (計 23 回)
1999.4～ 1999.5 まで		体外受精教室 (院長)	総数 6 名 (計 4 回)

行事一覧 (1)

1998	6. 9	読売新聞本社より取材を受ける「少子化と不妊症」について
	6. 18	大分合同新聞より取材を受ける「少子化と不妊症」について
	6. 28	日本産婦人科学会大分地方部会参加、発表 (大分)
	7 月	看護部…シュアステップ (-) の時の対応開始、Q&A 開始
	7. 7	1997 年度セント・ルカ産婦人科年報作成
	7. 9	第 16 回日本受精着床学会参加、発表 (大阪)
	7. 17	検査部体制開始
	7. 18	福岡不妊研究会参加、発表 (福岡)
	8. 8	第 38 回日本産科婦人科内視鏡学会参加、発表 (川崎)
	8. 29	第 3 回セント・ルカ産婦人科 ARTOG 会 (ガーネットサークル) 開催
	8. 29	関西テレビガーネットサークルを取材
	9. 9	検査部…DAY5ET 開始
	9. 20	第 46 回産婦人科情報処理研究会参加 (大阪)
	10 月	第 30 回アルメイダ QC 大会参加 (大分)
	10. 3	第 2 回不妊カウンセラー・IVF コーディネーター養成講座参加、講演 (東京)
	10. 3	16 th World Congress on Fertility and Sterility and 54 th Annual Meeting of the American Society for Reproductive Medicine 参加、発表 (San Francisco)
	10. 6	命の電話講演会参加 (大分)
	10. 12	セント・ルカ生殖医療研究所竣工式
	10. 13	新研究棟にて第 1 回ミーティング、パンの会の方がたのお話を聞く (大分)
	10. 15	新研究棟へ実験台搬入開始
	10. 23	第 8 回大分市医師会産婦人科不妊内分泌代謝懇話会参加 (大分)
	10. 24	第 5 回セント・ルカセミナー開催 (大分)
		講師：
		日本ミリポア KK 研究開発部 石井直恵先生 「細胞培養液と超純水」
		自治医科大学教授、日本生殖医療研究協会会長 荒木重雄先生 「ART の成績向上に必要な環境：培養・機器・ラボ内の気相のクオリティについて」
		広島 HART クリニック 向田哲規先生 「胚盤胞移植 (Blastocyst-ET) に関して」
		IVF 大阪クリニック所長 福田愛作先生 「米国における培養環境」
		Fertility Center of San Antonio Thomas B. Pool 「The Role of Blastocyst Culture, Cryopreservation and Transfer in Human Assisted Reproduction」
		座長：大分医科大学教授 宮川勇生先生

行事一覧 (2)

1998	10. 25	NHK 地球法廷プロジェクトより取材を受ける「ART と生命倫理」について
	11. 9	広島 HART クリニック見学1 (広島)
	11. 11	メディコム展示会参加 (大分)
	11. 12	第 43 回日本不妊学会総会参加、発表 (鹿児島)
	11. 12	朝日新聞より取材を受ける「不妊治療の経済について」
	11. 16	週間ポストより取材を受ける「精子数減少について」
	11. 19	第 29 回大分市医師会医学会参加、発表 (大分)
	11. 22	第 43 回日本不妊学会九州支部会参加、発表 (大分)
	11. 24	朝日新聞大分支局より取材を受ける「不妊患者へのケア」について
	11. 29	第 3 回赤ちゃんがほしい講座開催 (大分)
	11. 30	広島 HART クリニック見学2 (広島)
	11. 30	検査部…卵の個別培養開始
	11. 30	SRL 技術者より FISH 法を学ぶ (大分)
	12. 8	平成 10 年度第 9 回心理相談研究会 (福岡)
	12. 14	検査部…オイルカバー法開始
	12. 17	新職員…北村洋子 (検査部)
	12. 22	セント・ルカ産婦人科、セント・ルカ生殖医療研究所忘年会
	12. 24	セント・ルカ産婦人科、セント・ルカ生殖医療研究所クリスマス会
	12. 26	NHK 番組「地球法廷」に院長出演
1999	1. 4	セント・ルカ産婦人科、セント・ルカ生殖医療研究所新年会
	1. 7	主婦の友社「バルーン」に取材を受ける バルーン「赤ちゃんがほしい No. 4」に当院掲載
	1. 23	三宅医院見学 (岡山)
	2. 13	第 4 回セント・ルカ産婦人科 ARTOG 会 (ガーネットサークル) 開催
	2. 20	第 3 回不妊カウンセラー・IVF コーディネーター養成講座参加、講演 (東京)
	2. 20	第 1 回生殖医療支援ソフト (Sarah Base) を学ぶ講習会開催 (東京)
	2. 22	新職員…渡辺佳代 (受付)
	3. 2	西山産婦人科 (三重) より見学のため来院
	3. 12	原三信病院 (福岡) より見学のため来院
	3. 15	竹内レディースクリニック (鹿児島) より見学のため来院
	3. 20	ICSI WORK SHOP in 米子参加 (鳥取)
	3. 20	ジャーナルクラブ参加 (栃木)
	3. 27	第 31 回アルメイダ QC 発表大会参加 (大分)
	4. 1	新職員…平井香里、工藤英子 (検査部)、品矢悦子 (看護部)
	4. 4	第 2 回生殖医療支援ソフト (Sarah Base) を学ぶ講習会開催 (東京)
	4. 6	詠田由美先生、総婦長 (福岡) 見学のため来院
	4. 17	「不妊女性との意見交換会」 (東京)
	4. 18	第 10 回日本不妊学会春季九州支部会参加、発表 (福岡)

行事一覧 (3)

1999	4. 19	荒木康久先生ご来院
	4. 20	Africa Medical Association 発表 (<i>South Africa</i>)
	4. 23	第 9 回大分市医師会産婦人科不妊内分泌代謝懇話会参加 (大分)
	4. 24	第 1 回院長体外受精教室開催
	5. 10	11 TH WORLD CONGRESS ON In Vitro Fertilization and Human Reproductive Genetics 参加、発表 (<i>SYDNEY</i>)
	5. 23	第 3 回生殖医療支援ソフト (Sarah Base) を学ぶ講習会開催 (大阪)
	5. 27	第 40 回日本哺乳動物卵子学会発表 (東京)
	5. 29	第 4 回不妊カウンセラー・IVF コーディネーター養成講座参加 (東京)
	5. 29	生殖医療支援ソフト (Sarah Base) 発売開始
	6. 1	東邦大学へ研修 (東京)
	6. 2	公明党 矢野征子先生ご来院「不妊医療の社会性について」
	6. 12	第 5 回セント・ルカ産婦人科 ARTOG 会 (ガーネットサークル) 開催

スタッフ紹介

検査部

Dr. Paul E. kihalile

広津留恵子 長木美幸 佐藤真紀 牛島千秋 熊迫陽子
工藤英子 平井香里

看護部

指山実千代 磯崎美智子 倉橋千鶴美 柴田令子 市野瀬恵 渡辺利香
實崎美奈 原井淳子 品矢悦子 二宮 睦 斉高美穂 宿利佳子
安部徳子

受付

越名久美 渡邊佳代

情報処理室

後藤孝子 内藤多恵

厨房

後藤江美子 首藤清子 宇津宮富美子